

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>○既存養蚕農家の繭生産量の拡大並びに新規養蚕農家が新たに繭を生産することにより生計が向上する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存養蚕農家が生産する一箱当たりの繭収穫量が増加し（2013年1～12月実績平均 32.3 kg→2014年1～3月実績平均 34.26 kg、農家の得る現金収入が向上した。 ・同時に新規養蚕農家が寄贈された蚕具及び回転まぶしの正しい使用方法を習得し、養蚕事業導入に成功している。
(2) 事業内容	<p>A. 農家にて回転蒔（蚕具）の取り外し及び搬送 長野県辰野町（800組）、群馬県富岡市（700組）、山梨県南巨摩群富士川町（50組）において回転蒔を分解し、長野県辰野町の倉庫内に搬送した。</p> <p>B. 回転蒔の修理、調整 回転蒔の稼働具合を確認すると共に各部位の修理・調整を行った。</p> <p>C. 機織り機の解体、整備及び搬送 茨城県結城市の機織り会社にて機織り機3台を解体し、長野県辰野町の倉庫に搬送した。</p> <p>D. 上記の蚕具類及び機織り機の現地への輸送 整備後、3台のコンテナにて名古屋港を経由して現地プロジェクトサイト（ネグロス島）に輸送した。</p> <p>E. 荷受けの確認及び受け渡し フィリピン国セブの港へ1月3日に到着したが、仲介業者との連絡・調整に不備があったことから、現地への移送が遅延した。1月22日にオイスカバゴ研修センターにおいて荷受品の確認を行った。プロジェクト責任者及び州政府関係者の立会のもと荷受け品の確認を行い、2月26日にシルク生産組合への受け渡し式を行った。</p> <p>F. 各地区への配布及び指導 蚕具類は以下（a）～（e）の地区の担当責任者の管理のもと地区内の新規養蚕農家に配布した。 （a）カラトラバ町内、（b）サンカルロス市内、（c）マビナイ町内、（d）カバンカラ市内、（e）バゴ市内、（f）ビクトリア市内、（g）カディス市内に点在する新規養蚕地においては、桑の生育を見て実際の壮蚕飼育が開始される2014年5月以降に、各養蚕農家の状況に合わせて配布する。 各農家への配布はプロジェクト所有の車両を用いて行い、同時に地区の養蚕普及員が同行し、使用方法及びメンテナンスについての指導を行った。また、上記（a）～（c）の地区で新規養蚕農家を中心に回転まぶしの管理及び使用方法に関する技術啓発セミナーを開催した。（3月7日 カラトラバ地区、3月8日マビナイ地区、3月10日サンカルロス地区）</p> <p>G. 機織り機はプロジェクトサイト（バゴ）の機織りセンターに設置した。DTI（貿易産業省）より派遣されている専門家が技術指導を行い、併せて管理方法等についても指導を行っていくように調整中。</p>

（ここでページを区切ってください）

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>① 日本からの支援を受けたことによって、現地養蚕農家の間で更なる地域振興の気概が盛り上がり、地域ごとに養蚕農家の中から代表者を選出し、養蚕普及員と共に新規養蚕農家の開拓に努めている。一部養蚕農家の中では、回転まぶしを模した独自のまぶし制作を始めている。</p> <p>② 回転族を使用することにより、それまでバナナの葉やココナッツの葉、竹などを利用していた時に比べて管理が容易になると同時に、奇形繭の割合が大幅に改善された。また、回転族の利用によって通風換気への配慮が行われ、病蚕の発生が抑えられている。</p> <p>③ 2014 年に入ってから天候の不順により桑の生育が遅延気味であると同時に、日中の平均気温が 20 度を下回る日が続くなどの環境変化によって、壮蚕飼育を行うことが難しい。多くの農家では掃き立て箱数が減少気味にあるが、桑の生育を待つて養蚕を始めようとしている準養蚕農家が多く待機しており、雨期に移行するのを待つて本格的な繭生産を行っていく。</p> <p>④ 新たな日本製の機織り機の導入により、紬糸を使用した織物の生産や既存製品の生産に力を入れている。また、ミシンを使用して様々な新商品開発も行っていることから、絹織物のデザインや織り方の習得を目指している。1 年後には近隣の女性を中心に織物が出来る人材が現在の 10 人から 20 人に増え、絹織物の生産量も現在の 1.5 倍に増えると予想されている。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>① 回転族等の蚕具類の適切な活用法やメンテナンスはシルク生産組合の各地区担当者が農家への巡回指導を通じて常時行っていく。</p> <p>② 故障、破損が生じた場合はその都度修理方法の指導を行っていく。</p> <p>③ 大規模農家に対しては専門の技術者が簇の製作方法を指導し、現地でも生産出来ることを実証していく。</p> <p>⑤ シルク生産組合は州政府等の協力を得て、同型の蚕具類の生産体制を築いていく。</p> <p>⑥ 機織り機はプロジェクトサイトの機織りセンターに設置され、DTI(貿易産業省)の専門家指導のもと稼働及びメンテナンス指導が行われる。</p> <p>⑦ 現地には日本製の機織り機を真似て製作された経緯があり、シルク製品の増産を目指していく上で優れた同型の織り機の製作は十分可能であり、需要に応じて生産出来る体制が築かれている。</p>